



宝塚第一中学校の風

～ みんなでつくる みんなの学校 一中 ～

令和2年(2020年)8月18日 発行

前例のない「1学期の延長戦」

～ ところとからだを大切に～

【校長：田川隆司】

7月の末までであった「1学期」。そして8月1日からやっと始まった「夏休み」もあっという間に終わってしまい、本日8月18日から「1学期の延長戦」が始まりました。

この17日間の「夏休み」をどのように過ごしたでしょうか。

中学生にとって「夏休み」は、学習であれ部活動であれ、友だちと遊ぶことであれ、自らの生活を計画し、様々な課題に向き合うことができる貴重な時間。

そして、何より家族（遠方の親戚等を含む）との大切な時間でもあったはず。各地で「新型コロナウイルス」感染者数が増加するというニュースが連日のように流れている中、連日の猛暑により「熱中症」にも気をつけねばならない状況が続き、春の臨時休校時と同じように外出も自粛しなければならぬ日々だったのではないのでしょうか。かといって、今日からその心配が無くなるわけでもなく、毎日「感染対策」を行いながら「熱中症対策」も平行して行う「1学期の延長戦」は、“サヨナラ”の勝利にはほど遠い状態と言えるでしょう。



とはいえ、学校がやれるべきことは工夫しながら進めていかなければなりません。一番大切なことは子どもたちの安全・安心です。本人が気づかない症状もあるかもしれません。家庭生活はもちろん、学校外での行動でも心配な症状が見られたら早めに心と体を休めることを第一にしてください。

さて、私はというと、この夏「ドキュメンタリー番組」を観る機会がとて多かったです。そのほとんどがNHK 関係です。さすがだと思いますが、幅広い関係機関とのやりとりと膨大な資料から新たに見つかったもの。そして、戦後75年も経って初めてわかったこと…。75年もの間、なぜ公にならなかったのか、あるいは75年かかってやっとわかったのか。

例えば、ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾。その「核」というエネルギーを日本も研究していたという事実。そして兵器としても開発しようとしていた…。医学として「人を助ける」ということに役立てようとしたものが、「人を殺める」残虐な兵器に変わってしまう。無条件降伏に従わず、最後まで抵抗をやめない日本に対して、九州南部への大々的な上陸作戦を計画し、9月以降「9個」の原爆を用意していたこと等々。

また、オキナワについても日本軍よりもはるかに「情報」を的確、そしていち早く有利に活用した米軍が「グリッド」という地図上のマス目に集中砲火を浴びせ、動くものは兵士であれ民間人であれ攻撃するという綿密で非情な計画。

太平洋戦争は日本とアメリカの決定的な物量の差とよく言われるが、考え方や倫理、方法や手段と行った細かいところの差まで「なぜ」という疑問がさらに沸いてくる。

現在の「新型コロナウイルス感染症」対策についても似たような部分を感じる時がある。

例えば、世界的な脅威にもかかわらず対策に大きな差がある国々。民族的にウイルスに対する抗体のパターンが異なるため、特定のウイルスに感染しにくいように進化している部分があったり、生活様式が影響していたりということに加え、国や民族により考え方が異なっているとはいえ、情報を共有して分析する姿勢に欠けていたり、他国のせいにしてしまったり…。「疑う」ときりが無くなるが、ともすれば「戦争」に近づいているのかもしれないという「不安」にも繋がり、ここにも「なぜ」という疑問がついてくるものの、私たち庶民にはわからない情報が世界中を飛び回っているのは確かでしょう。

数年後、いや数十年後になって「新型コロナウイルス感染症」の正体が別の形で明らかにされるのかもしれない。

君たち一中生はこの短い夏休みにどんな経験をし、どんな学びに繋がったでしょうか。

心身ともに厳しい日々が続いたことでしょう。しかし、この「逆境」を経験したことは、紛れもなく「前例のない」経験です。何もできなかったが何か「感じたこと」はないだろうか。その「感じたこと」を大切に、これから始まる人生において、いつ、どこで、どんなことが起きてても不思議ではない、そんな世界の中において、その世界を自分なりの方法を見つけて生き抜いていくという「覚悟」に繋がることを期待しています。

そして、この「1学期の延長戦」を制してみようじゃないか。

◆中体連「3年生交流大会」結果

7月23日（木）～26日（日）

・ソフトボール	優勝	・陸上競技	
・女子バスケット	準優勝	女子100m	第1位 ○○
・女子バレーボール	第3位	男子200m	第2位 ○○
・男子ソフトテニス		同	第3位 ○○
○○・○○組	第3位	男子100mH	第3位 ○○

(※HP上では個人名をふせております。)

▼春の大会に続き、夏の大会もなくなる中、3年生にとっての区切りをつける大会として開催された「3年生交流大会」でした。本来なら、「東京2020オリンピック」が開催される予定だった日。

感染症対策を十分行っただけの緊張感あふれる大会は、どの部活動も「宝塚第一中学校」の名の下、決して奢ることなく、礼儀正しく活躍してくれたことを誇りに思います。

この経験はこれからの長い人生できっと「輝くもの」になると期待しています。

◆「個人懇談会」の御礼

8月3日（月）～5日（水）の期間、「個人懇談会」を実施いたしました。非常に暑い中、短い時間にもかかわらず足を運んでいただいた保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。

特に3年生は、進路にかかる話題が中心だったかと存じます。これからも学年から随時「進路情報」が発信されますので、必ずご覧いただき、「オープンスクール」など、早めの計画をお願いいたします。